

策定年月	令和6年9月
見直し年月	令和〇年〇月

麦・大豆国産化プラン

産地名：豊岡市河谷

（作成主体：農事組合法人 河谷営農組合）

1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

豊岡市は兵庫県北部、日本海に面する兵庫県北部に位置し、その中心部である豊岡盆地に水田が広がっている。円山川とその支流を含めた流域に穀倉地帯を形成している。

気候は日本海型気候で、年平均気温14.6℃、年間降水量2072.0mm、秋冬期は雨と雪が多いため、日照時間は少ない。

豊岡市では、コウノトリ野性復帰推進計画の一環で行われている「コウノトリ育む農法(米、大豆)」で環境保全型農業をリードしている地域である。

平成18年、関西大豆協会からの契約栽培の要請を受け、コウノトリも住める環境づくりに配慮した「コウノトリ大豆」として栽培が始まったが、水稻栽培におけるコウノトリ育む農法での大きな課題である雑草対策のため、田んぼを1～2年に一度、畑地化し、大豆や小豆の栽培に取り組んでいる。豆は土地利用型農業を進める上で米と並ぶ重要な作物であり、県内の食品会社と結びついた無農薬の大豆や減農薬の麦の契約栽培により、品質の優れた麦・大豆を安定供給に取り組んでいる。

当地の中耕培土の時期は雨期と被ることから、これまで作業時間が制限されていた。そのため適期に作業ができず、雑草が繁茂して生育を阻害していた。実需者の求める品質と量を確保するためには、適期に中耕培土する必要があり、従来導入していたものよりも条数の多い中耕ロータリーを導入することにより、中耕培土の作業性を向上させる。

また、現有機では車高が低く、1回しか中耕培土の作業ができていなかったが、車高の高い中耕ロータリーつき乗用管理機を導入することによって2回目の中耕培土が可能になる。そのことによって、雑草の繁茂を抑制するとともに、除草の時間を軽減することができる。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

①需要に応じた生産と販売の実現

豊岡市では、絶滅危惧種であるコウノトリの野生復帰に取組み、農薬を減らし、生物の多様性を取り戻す農法が進められている。コウノトリとの共生を願い環境に優しい農産物として「コウノトリ育む農法」があり、その農法で栽培した大豆について実需者(株)A・(株)B・(株)C)と話し合いを持ち、要望に応える。そして単収向上に取組み、生産量を確保する。

また、基本技術の徹底により、湿害による発育不良を防ぎ、中耕除草の徹底、及び刈取時による汚粒回避に努め品質向上と単収の増加を図る。

②需要に応じた新品種への取組

実需者(株)A・(株)B・(株)C)の要望聞き取りに合わせ、新品種を取組を行う。令和8年産より兵系黒7号への切り替えを予定しており、豊岡農業改良普及センター・JAたじまと連携をとり、新品種への取組に着手する。

③ブロックローテーションの実施

実需者は農薬を減らしたコウノトリ育む農法で栽培された大豆を要望しているが、コウノトリ育む農法の課題である水生雑草抑制と連作障害の防止のため、水稲と麦、大豆作のブロックローテーションを行っている。取組面積は約29haであり、おおよそ2～3年おきに畑地化することにより、作付作物の安定供給につなげている。

④栽培の効率化

実需者の求める品質と量を確保するため、当地の作業時期の天候等を踏まえ、耕耘同時播種技術の実証や、栽培期間中の管理、刈取時の品質等を考えた機械の導入を進め、栽培の効率化を図る。

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

取組方針：大豆の国産化拡大

具体的な実需者との連携内容

品目名	現状の品種	これから取組む 新品種	産地名	作付面積(ha)		単収(kg/10a)		生産量(kg)		
				現状 (R5年度)	目標 (R8年度)	現状 (R5年度)	目標 (R8年度)	現状 (R5年度)	目標 (R8年度)	
大豆	クロツル	兵系黒7号	河谷営農 組合	普通大豆	1.13	1.13	114	120	1,290	1,356
				種子大豆	0	1.52	0	120	0	1,824
	あやこがね	サチユタカ		普通大豆	3.75	3.75	106	120	3,970	4,500
				種子大豆	1.52	0	108	120	1,655	0
計				6.4	6.4	108	120	6,915	7,680	
内訳				普通	4.9	4.9	—	—	5,260	5,856
				種子	1.5	1.5	—	—	1,655	1,824

実需者の国産大豆 取扱量現状 (R5年度)	実需者の国産大豆 取扱量目標 (R8年度)
6 t	7 t
6 t	7 t

出荷先	最終実需者	用途
(株)A (株)B (株)C	一般小売 飲食店 (株)D	加工食品 (煮豆、豆腐等)
種子の出荷先はJAたじま		

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

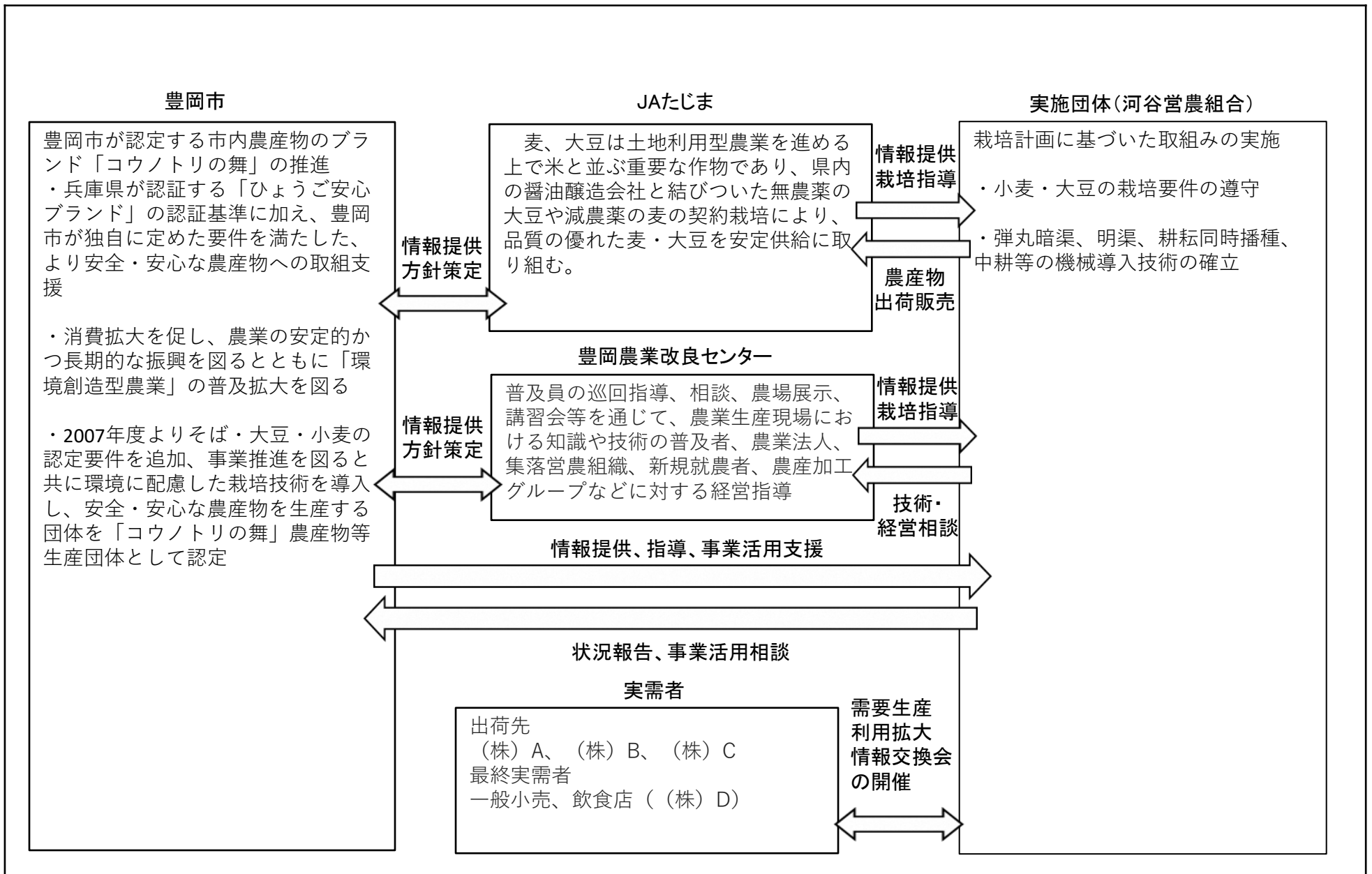
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。